



題字・イラスト：会員 加藤 比呂志

# 紺 碧

早稲田大学校友会 調布稲門会

調布稲門会 会報

2009.1 No. 29号

事務局 調布市下石原 3-62-1  
堀紙管棟内

Tel 042-498-0218

Fax 042-487-1154

編集責任者 香山 弘之

## 2009年 年頭に当って

会長 河野 瑠美

新年明けましておめでとうございます。

2009年は見事な青空とともに明けましたが、皆様にはお揃いでよいお年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

昨年12月7日(日)に開催されました恒例の調布福祉バザーでは、お陰様で寄付金が148,755円となり、参加以来はじめて三田会を上回りました。また、火を使つての“焼き餃子”の提供も大変評判がよく、事故も無く終了することが出来ました。これもひとえに皆様のご協力の賜と心より御礼申し上げます。

新年の全国大学箱根駅伝は終始ハラハラ、ドキドキの連続で、つつい最後までテレビに引き込まれてしまった次第です。昨年に続いての準優勝に心からの拍手を送りながらも、ゴール地点で泣き崩れる選手の姿に、今年こそ優勝させてやりたかったと募る思いです。

1月10日に開催されましたラグビーの決勝戦は、前半リードで折り返し、後半更に差を広げ快心の二連覇で、心地よく「荒ぶる」が謳えました。

昨年はサブプライム問題が発生、その上、原油、穀物の異常な高騰など経済界に様々な問題をもたら

し、ついに9月にはアメリカ発の金融危機が起き、瞬く間に経済的混乱が世界中に広がる事態を招くに至りました。併せて、宗教的、民族的対立の典型とも言えるイスラエルによるガザ侵攻も解決の糸口さえ見えず、まるで巨大なパンドラの箱の蓋を開けてしまったような有様ですが、箱の隅にはまだ“希望”が残されていることを信じたいと思います。

今年の干支の“丑”は「手の先を曲げてつかむ」形の象形文字で、「すぼむ、引き締める」意を表す文字とされています。漢時代以降、失われてしまった

原義に立ち返り、身近な人々、或は仲間同志と手を繋ぎ、心を繋ぎ合つて平和と幸せを見出してゆくことが出来ればと念じております。

最後になりましたが昨年10月26日の稲門祭・ホームカミングデーも盛況に終わることが出来ました。記念品の購入・販売、様々な行事への

参加と支援を戴きました役員の皆様方に厚くお礼申し上げます。

また11月2、3日に開催されました「早稲田祭2008」を成功させようと一年間頑張り続けた我等が後輩達にも、今後益々のご支援を併せてお願い申し上げます。尚、早大校友会に未加入の方は、是非と



も校友会会員になって頂きたいと思います。

因みに、校友会の年会費 5,000 円の一部が校友会奨学金に配分されますので、次世代を担う後輩学生

の育成にご協力をお願いします。

(写真：旧 5 号館 商学部が 14 階のビルに建て変わり、  
正門からのキャンパス景観が変わる)

### 調布市福祉まつりバザーへ参加

第 31 回調布市福祉まつりバザーが、平成 20 年 12 月 7 日（日） 午前 9 時 30 分より午後 2 時 30 分まで、例年のように調布市役所前広場で開催され、わが調布稲門会も他の 25 諸団体と同様、参加致しました。

当日は雨天決行の予定で準備を進めて参りましたが、お陰様で終日、好天に恵まれ、尚、米国発世界同時金融経済危機の到来で、街角景気の方角も心配されはじめていましたが、お客様の出足も好調で、予定を上回る売上で、最終的には福祉協会に対し、



148,755 円の寄付をすることが出来ました。

福祉バザー一参加に際し、第 1 回幹事会が 10

月 18 日（土）に開催され、河野会長、大谷副会長（実行委員長）、その他関係役員の出席のもと、日程、役

割分担等につき、きめ細かい討議を行い、11 月 30 日（日）の集荷をはじめとして、12 月 5 日（金）には値付けを行い、当日の搬入、販売に対し準備、対応を致しました。

尚、幹事会の席上、小笠原委員から餃子の即日販売の提案があり、初めての試みでしたが、皆で討議し、挑戦してみようということになり、実施致しました。



三田会をはじめ、他の校友会と比較しても、当稲門会が寄付金額でトップの成績であったことは、この催しが功を奏したとも思われ、尚、皆のやる気とチームワーク、一致団結の成果であったと思われま

す。各役員、関係各位の協力と努力に感謝申し上げる次第です。

### 準会員ご婦人方の活躍

早いもので 6 年間勤めた会長職を辞して 3 年半が経過した。最近の準会員ご婦人方の活発な活動振りを見聞するにつけ、発足当時の事が思い出される。

会長就任の初年度、平成 11 年 5 月 15 日の総会に、当時母校校友会の代議員（現在は商議員）を勤めておられた文化女子大学教授、柳洋子先生に講演をお願いした。女性の講師は初めてのことであるので、幹事諸兄のご夫人方の聴講を勧め、私の家内も参加させていただいた。

当日、「衣服と人間」という演題だったが、衣服の歴

相談役 笠原昌夫(25期)

史を通して女性の自立を促す素晴らしい講演で、家内も感激して帰宅したことを覚えている。当日参加されて接待に当たられた川島夫人、棚橋夫人、濁川夫人が大変感銘されたお話を後でお聞きした。

会員増強運動を開始した時期でもあり、幹事、会員諸氏の夫人、親戚、家族の方々を準会員として迎え入れたいと思い幹事会に図ったところ、女房には入られると窮屈になる等々満場一致という訳にはいかなかったが、賛成者も多く、会長の提案なのでという事で採択になった。

年会費は千円(会員は三千円)という事で、平成13年に7名分の会費が入金された事が記録に残っている。

現在の準会員は22名と増加し、河野会長も力を入れられて、女性だけの食歩会も発足させ、特にワンゲ

ル同好会は女性の活躍が目立っている。総会、新年会も準会員で婦人方の参加が多く、母校の発展を願うと共に、男性女性が協力して楽しい調布稲門会を創る事を目指して活動されるよう願っている。

### 準会員誕生のきっかけ

平成11年(1999年)5月15日、調布稲門会総会の講師・柳洋子先生(早大卒、文化女子大学教授)の演題は「衣服と人間」でした。その時に笠原相談役(当時会長)が、会員の夫人達にも、講演を聞きに来るよという、嬉しいご配慮が有りました。当日は4人の夫人が出席しました。柳先生が早めにいらしたので、控室にて私たち3人が接待し談笑しました。そのうち、柳先生が、大学行事の案内状を私たちに送って下さることになりました。住所と名前をメモにとわれ、「後で主人の名前で…」との申し出に「貴女方、ご自分の名前を！フルネームがあるでしょう！家では何と呼ばれているのですか？」私たちは一瞬ドキッとして「えーと、いつもお前とか、おいとかがす…。」「貴女方一人の人間として自立していませんねえー。考えましょうよ！」と励まされました。そういえば今迄自分の名前を、家でも、外でも呼ばれたことが無かったのです。

まもなく柳先生から、案内状が届いて私たち一同で行きました。新宿にある文化女子大学の正門で先生と待ち合わせ、新装なった大学構内を巡りました。充実し立派な設備、研究中の学生さん、作品等々の一つ一つに目を見張りました。更に服飾博物館にご案内いただき、日本の衣服の歴史や衣装に、私たちは感動しきりでした。また、購買局に行き、教材用の沢

川島秀子、棚橋三枝子、濁川マサ(準会員)山の生地や、備品にびっくりしました。各自好みの生地を、あれこれ迷いながら購入しました。最後に柳先生が、行きつけのお食事処で、ご馳走して下さいました。私たちは恐縮し通しで、珍しさと、嬉しさとで気持ちが高ぶっておりました。それでも柳先生の教育熱心、探究心、向上心をすべてお持ちの人柄は、女性として心から尊敬できると確認しました。その日3人は、心から楽しかった一日を幸せだったと感じたことを、昨日のように覚えています。

やがて私たちは各自で夫に懇願し働きかけたことが、当時の笠原会長へと伝わりました。笠原会長は、とても熱意ある方で、女性の参加に、心から耳を傾けて下さり、幹事会で話し合っ準会員制度の実現に努力して下さいました。平成13年の総会では、発足と同時に、女性の参加も多くなりました。おかげさまで、今年で9年目、会員夫人15名、ファミリー7名と増加し、特にワンゲル同好会、女性のみ食歩会同好会は参加が多くなり、賑やかになり嬉しい限りです。三多摩の稲門会からは、この制度を羨ましがられております。

最後に、歴史ある調布稲門会の先輩会員、そして続いて入られる会員の方々、お一人お一人のご活躍と私たちへのご指導をお願いし、益々のご発展を一同でお祈り申し上げます。

## 紺碧の広場 会員エッセイ

### フィジー共和国での国際ボランティア

根岸 浩(昭43 理工)

私が海外でのボランティアに関心を持ったのは、50歳の頃だったと記憶しています。どうして私が50歳の頃、海外ボランティアに興味を持ったかという

皆さんの疑問に関して、まずその理由を最初に説明したほうが良いと思います。

私は高校生の頃から建築家になりたいと思っていました。また海外で仕事をしたいというのが、その頃からの夢でした。

私は43年に理工学部建築科を卒業し、東京の建設会社に入りました。

最初は建設現場の工事監理を行い、その後建築設計部に移り、マンション、工場、住宅などの設計を行っていました。設計部に所属中に社内で優秀設計賞をもらったこともありました。

24歳で結婚し、2人の子供が生まれ、29歳の時、会社から海外赴任のオファーをもらいました。ただしその条件は赴任する国の政情が不安定な為という理由で、単身赴任でした。その頃の海外赴任は単身赴任が当たり前のことでした。ワイフのOKをもらって、2人の子供を東京に残して、最初の単身赴任地である韓国に赴任しました。

その頃の韓国は、まだ戒厳令があり、夜間外出禁止令のあった、外国人にはとっても厳しい時代で、そこで1年間、プラントの設計監理をしたのははじめとして、シンガポール、マレーシア、まだベルリンに壁があった頃の東ドイツ、アメリカが地中海に置いた空母からカダフィーという元首を殺そうと爆撃機を発進させ空爆を行った時にいた中近東の国、リビア、等でのプラント建設の設計監理等を行いました。その間、プロジェクトを移る合間、半年ぐらい日本に滞在し、家族と一緒に過ごしたことはありましたが、プロジェクトの赴任を解かれるまでのプロジェクト期間中は、半年に2週間だけ日本での休暇が認められるという、かなり過酷な仕事でした。大きなプラント建設のプロジェクトではピークで建設に携わるワーカーの数が5千人にもなり、まずワーカーの住む町造りから始めます。その中には映画館、ショッピングセンター、レストラン、等や道路、上下水道、大規模電気工事等生活インフラを含む、新しい都市を造る都市計画が行われます。それにも携わってきました。

これら当時の開発途上国の生活環境は、プラント建設現場ですから都市からだいぶ離れた、まだ水も電気もない場所で建設を始めるのですから、砂漠の

ど真ん中だったり、原野のど真ん中だったり、それは過酷な状況でした。そんな環境の中で10年間家族と離れて単身赴任で、仕事をしてきました。

若かったので、仕事にがむしやらに向かっていき、楽しい事もありましたが、やはり家族と離れての単身赴任はかなりきつかったのを覚えています。

単身赴任の海外での10年間の都市計画、土地開発、設計監理、およびそのマネジメントの経験を買われて、今度はやっと家族同伴で、米国での責任者としての仕事のオファーがあり、家族と一緒にロスアンゼルスに赴任しました。それが39歳の頃だったと思います。

その後、米国で12年間の間に12の会社の社長をしていました。

海外でボランティア活動をしたと思ったのは、そろそろ後任にそれらの仕事を譲り、帰国のことを考え始めていた50歳の頃でした。米国での会社は土地開発会社、設計事務所、ファイナンス会社、不動産管理会社、建設会社、各開発プロジェクト会社等の責任者として、東海岸から中西部、ハワイ、グアムまで含む全米に手を広げて、それぞれの場所に広大な土地、数多くの建物を購入したりして、ファイナンスをつけ、サンフランシスコでは2山を購入して都市計画を行い、住宅開発建設を、ロスアンゼルスでは数多くの住宅開発建設や、ショッピングモールの開発、オフィスビルの開発、などを行ってきました。オフィスの中は、日本人は私だけで後は米国人を使い、仕事は会話も契約書類も設計図面も総て英語でした。そんな仕事だったので、帰国するに当たって、22年に亘る海外の経験を生かしたボランティアをしたいと考えたのは私の中では自然なものでした。

米国から帰国した時、日本の建設業界はバブルがはじけた後で、大変な状況でした。帰国後1年で希望退職に応募し、退職するまでの間、たまたま米国での友人で、すでに日本に帰国していた外務省の友人にも、海外でのボランティアを相談し検討しました。そんな中、たまたま縁があり、これまでとはまったく仕事の違う外資系の人材派遣会社に就職して、

本社や、支店のある海外に何度も出張したりして、定年を迎えました。

定年を迎えるに当たり、その2-3年前から、定年後は海外ボランティアをやろうという気持ちがだんだん強くなりました。

定年を迎える年、大きな責任のある仕事をしないかと、いくつかヘッドハンティングの会社からオファーをもらいました。そんな時、外務省の友人からフィジーの政府から都市計画を指導するボランティアの仕事があるとの連絡が入りました。

フィジーのボランティアに応募するには JICA の募集に応募して、赴任するのが条件だとの事でした。早速 JICA の海外ボランティアの説明会に出席して、応募の詳細を聞き、フィジーの環境を観光案内書やインターネットで調べて、自分の22年間の海外生活で養った経験と知識がフィジー政府の建設省の若い人達への指導に役立つと確信しました。

そこで、ヘッドハンティング会社のオファーを丁重に断り、フィジーでのボランティアにチャレンジすることに決めました。

JICAの実施する経歴審査、英語のテスト、面接をパスして、2週間の研修を受け、2006年3月に2年間の契約で南太平洋のフィジーに大きな希望を持って赴任しました。

私は、米国人が自分のできる範囲内で、身近なボランティア活動を楽しくやっているのを目にしてきましたので、ボランティアというものは苦しんでやるものではなく、楽しんでやるものだと米国での生活の中で学びました。

その為、フィジーに赴任するに当たり、大好きなゴルフ道具、テニスラケット、釣り道具が荷物のほとんどで、フィジーに出発しました。

私のフィジーでの生活を語る前にフィジーの国について少しお話しします。

フィジーは日本から飛行機で約10時間、南半球の緯度18度、経度はゼロ、日付変更線の真下にある国です。

世界で1番早く朝が来る国です。

日本との時差は3時間。3時間早く太陽があがります。

フィジーは大小400近い島からなり、その島を集めた総面積は四国の島とほぼ同じです。

人口は80万人、調布市の人口の約4倍。40万人はフィジー人、40万人はインド人。

日本人はほとんどが、大使館、JICAのオフィスで働く人とボランティアで、全部で、80人位しかいません。

フィジー人はメラネシアポリネシアの混血で、男はのんびりしていて女性は良く働きます。

なぜ人口の半分がインド人かと疑問に思うでしょう。130年前に当時フィジーは英国領でした。英国人はフィジーにほとんど金が出ないので、サトウキビとココナツの畑を作り、のんびりやのフィジー人を働かせるのを見限り、インドから大量のインド人を労働者としてつれてきました。その為、人口の半分がインド人になりました。

フィジー人が働かないのは、1年を通じて気候が温暖で、1年中半袖、半ズボンで暮らせ、裏山に行けば主食のタロイモが野生で豊富にあり、野性のバナナや野菜もたくさんあり、海の幸も豊富で、お金がなくても生活できる環境が大きな理由だと思えます。一般的に考えられているフィジーは、観光、リゾートが主な産業だと思われています。スポットライトを浴びている、そのような華やかな面もありますが、観光に携わっていない現地の人達は貧しく、質素な暮らしをしています。先進国からの援助がないと、国が経済的に成り立たない国なのです。

宗教はフィジー人のほとんどがキリスト教です。インド人はヒンズー教です。

フィジーの典型的な料理はタロイモが主食です。タロイモはサトイモの大きい形をしていて味はサトイモ、サツマイモの味がします。彼らはこれを蒸

すか茹でて食べます。おかずは魚、野菜などをココナッツで茹でたものが主流です。それがココナッツスープに入ってできます。

インドの料理はカレー味です。カレーも日本のカレーと違ってドロットはしてなくて、さらっとしたスープ仕立てです。オイリーでさらっとしたカレースープに、つぶした骨付きの鶏肉や、魚がそのままが入っているのがフィジーのインドカレーです。

小学校は公立の学校もありますが、中学、高校では、フィジー人はキリスト教系の学校に、インド人はインド系の学校に通っています。総て英語で授業しています。フィジー語はありますが文字はありません。話し言葉だけです。その為フィジー語を書くにはローマ字を使います。

英国領だった為、公用語は英語です。

フィジーには鉄道があります。人を乗せるものではなく、今でも使われている汽車や、ディーゼル機関車は、大きさが今の汽車などの半分のサイズです。レールも細く、幅も半分位。なにに使うかという、刈り取ったサトウキビの運搬だけに使っています。狭いレールがサトウキビの畑の中をくねくねと走っています。公共の乗り物はバスです。バスには窓のガラスがなく暑さよけのため素通しです。雨が降ったら窓枠の上に巻いてあるカーテンを下ろして雨よけにします。又タクシーも最初100円くらいで、安いので利用しています。バスやタクシーは日本の中古車がほとんどです。日本の\*\*タクシーと社名が日本語で書かれ、車中には日本で使われていたチラシがそのまま残っているタクシーも見かけます。小型トラックも日本の会社名が付いたままのトラックも走っています。

島々を結ぶフェリーもほとんどが日本で役割を終えた中古のフェリーです。タクシーと同様、フェリーの船内には日本語の案内がそのまま残されています。それでもしっかりと役割を果たしています。

フィジーの周りの南太平洋は日本のマグロ漁の漁場です。キハダマグロが主流です。首都のスバという所に日本の土佐物産という日本からただ1つの

マグロを扱う企業が来ています。又日本の商社が出資して出来たマグロの缶詰工場もあります。ただ近年マグロの漁獲量が大幅に減り缶詰工場も閉鎖寸前と聞いています。

それでは次に私が日本を出発する所からフィジーでの生活についてお話します。

JICAの2週間の研修を終えて、フィジーに赴任する前に、都庁と、調布市長に挨拶に行かされました。いまだにその理由が良くわかりませんが、多分JICAの宣伝が理由だと思います。

フィジーにボランティアとして赴任するに当り、JICAからは表紙の色が緑色の公用旅券（パスポート）を支給されました。私の一般パスポートはJICAに取り上げられました。1人で2つのパスポートは持つてはならぬとの事でした。一般のパスポートとの違いは表紙が緑色な事（一般パスポートは赤色）と、表紙に書かれている英文が一般用では JAPAN PASSPORT で、公用は JAPAN OFFICIAL PASSPORT と書かれているだけで他は全く同じものでした。説明では緑色の JICA 支給の緑色パスポートは外交官特権はないとのことで、それでは何のための新しいパスポートか、未だに理由がわかりません。

フィジーには合計15名のボランティアが同時に入りました。海外協力隊という40歳以下のボランティアが8名、シニアボランティアという名の40歳以上70歳以下のボランティアが7名。どうゆう訳か、私が最年長でした。1国に1度に15人の海外ボランティアが派遣されるのはとても珍しいと思いました。

若い海外協力隊の隊員は1人が女性、その人はハンディキャップのある子供が通う学校に教師として派遣された人でした。あとの若い人達は日本語教師、コンピュータ指導者、柔道教師、車の修理指導員などでした。7名のシニアボランティアは男性で、それぞれの経験を生かした人達で、コンピュータ関係が3人、元銀行員が1人、元車の技術者が1人、放

送関係者が1人と多彩な経歴の人達でした。シニアボランティアの7名のうちゴルフ道具を持ち込んだ人は私を含めて5名、テニスラケット、釣り道具を持ち込んだ人は私だけでした。

皆に根岸は何しにフィジーに来たんだと非難されました。ゴルフ道具を持ち込んだ、あんた達と50歩100歩だと受け流しました。

そしてフィジーでのボランティア活動が始まりました。私は厳しい環境での海外生活での長期単身赴任の経験がありましたから、フィジーでの生活はそれに比べると天国でした。

皆さんの関心はボランティアの生活費はどうなっているのかな～？ だと思います。

生活費はJICAから生活に必要な最低限の住居費と生活費は支給されます。

私の場合はせつかく南の楽園に来たのですから、その環境をエンジョイしようと思い、自腹を切って、新築のセキュリティゲート付リゾートマンションの1階の20坪位の1ベッドルームを借りました。10坪の屋根付きの専用バルコニーが付き、バルコニーからそのまま芝生の庭に下りて、バルコニーから15メートル先の庭の目の前が南太平洋の海です。オーシャンフロントのマンションでした。赴任中の2年間はそこに住んでいましたが、とっても快適でした。とても日本では住めない環境でした。

そのマンションのオーナーはオーストラリアの建設会社で、家具付で契約したのですが忙しいとの事で、会社の担当者が家具を見に行く暇がなく、建築家の私に予算を渡すから好きな家具を買ってくれといわれ、壁が真っ白だったので、私好みの黒色の軽い感じがするダイニングテーブルセットと、黒色のリクライニングチェアを買い、真っ赤なクッションでアクセントをつけ、ベッド、冷蔵庫、洗濯機、乾燥機、必要なキッチンセット等を買いました。東向きの部屋だったので、カーテンは黄色を選びました。朝は朝日がそのカーテンを通して、部屋中を、目を覚ますような明るいゴールドに染めて、朝の目覚めが楽しくなりました。

昼間、スクールがある時は、目の前の南太平洋の上に綺麗な、澄んだ、7色の虹が出来ることがあります。庭の先にある海水面にクリスタルガラスをばら撒いたように、キラキラと光っている海の上に、我が家から50メートル先のすぐそばに、綺麗な虹が小さく鮮やかに出来た時は、目の前に本当に天国の入り口が現れたかのようでした。その時はその虹が出来た小さな場所だけにスクールが降っていたのです。そんな珍しい光景を何度も見ました。

夜の波が静かな時は、対岸の首都のスバの夜景が鏡のように平らな海水面に映り、その色とりどりの光が、静かな海の上を、長く光のブリッジとなって我が家の庭まで届きます。庭にリクライニングシートを持ち出して、満天にキラキラ輝く星達とその幻想的な光のブリッジを見ながら、大好きなMJQのジャズに静かに耳を傾けながら、冷たく冷やしたオーストラリアの少し渋みのあるホワイトワインの香りを楽しみながら、それを口の中で転がす時、とっても芳醇で贅沢な時間を楽しむことが出来ました。全部で8世帯の小さなマンションでしたが、隣は若いオーストラリア人のデベロッパー夫婦と、南アフリカから来た白人のボランティア夫婦、など白人達のコミュニティーの中で私がただ一人の黄色人種の日本人。でもみな良くしてくれて、仲良く楽しく暮らせました。

休日は庭の目の前の海岸で釣りをして鯛などが釣れました。すぐ隣村のフィジー人の漁師と仲良くなり、我が家の庭に漁師の船外機付の船が迎えに来て、日本では幻の魚のクエや、鯛、ハマチ、マグロなどを一緒に釣りに行きました。それらは体長1メートルくらいで、日本から持ち込んだ大きな針がとっても役に立ちました。1日中彼らと釣りを楽しんでも、ガソリン代2千円上げると、彼はとっても喜んでくれました。もちろんそのうちの1匹だけは我が家に持ち帰り、あとは彼に差し上げました。漁師は釣竿を使わず、釣り糸を手の感触で釣りをしていました。釣りの成果は2年間通じて漁師と同じ位でしたので、その釣りの成果には私も満足しています。

フィジーには米国でも活躍している、世界的に有名なプロゴルファー、B. J. シンがいます。彼はインド人ですが、国籍はフィジーでインドフィジー人です。フィジーには18ホールのゴルフ場が4つ、ハーフのゴルフ場1つあります。私のいた首都スバにはメンバーシップのゴルフ場が1つと、車で1時間の所にやはりメンバーシップのゴルフ場が1つありました。

でもゴルフ人口が少ないので、予約なしでメンバーでなくとも150円、2千円でプレーが出来ました。プレーヤーが少ない為、セキュリティのために現地人のキャディーをつけてプレーしました。キャディーは職のない現地人男性で、メンバーシップのゴルフ場なのですが、ゴルフ場は目をつぶって、彼らがキャディーとしてプレーヤーと一緒に回るのを黙認していました。プレーヤーは日本人、韓国、豪州、米国、英国などの大使館職員や、インド人がほとんどで、フィジー人はほとんどいませんでした。朝早く1人で行っても同じ料金で、ラウンドできました。朝早く、友人と一緒にまわる時も、昼前にあがり、我が家に帰ってシャワーをした後、皆で、庭先にテーブルを持ち出し、静かな透明なクリスタルの海と、真っ白な雲と真っ青な空と、CDから流れる、小田和正の曲を聴きながら、手軽に作る私のデリシャスな手料理に満足しながら、夜までワイワイガヤガヤ楽しみました。

ゴルフ仲間はシニアボランティアの単身赴任者だとか大使館、JICAの人達で、時間だけはたっぷりあるので、時間を気にせず、楽しみました。毎月1回、大使杯コンペがあり、大使はゴルフをしないのですが、毎回20人位集まりコンペを楽しみました。私も1回優勝したことが良い思い出です。天気がよければ、出来るだけ、健康の為に毎週末にゴルフを楽しむようにしました。気候は暖かい日というより暑い日が多いので、腰痛もちの私には2ラウンドは出来ませんでした。週末のゴルフとテニスは健康のために出来るだけするようにしていました。

テニスは首都のスバに1つだけ市営のテニスコ

ートがありました。5面のオムニコートがあり、1面1時間200円でした。若い日本のボランティアはほとんどテニスはやりませんでした。シニアボランティアは5-6人大好きな人達がいて、その人達と毎週末、4時間くらいテニスを楽しみました。仲間の中に75歳の元気で、上手なプレーヤーがいて、Iさんといって商社をリタイアした後フィジーに住みつき、I杯のトロフィーを寄贈してトーナメントを年2回行っていました。残念ながら2年間の滞在中、私は優勝できませんでした。

遊びの話の先にしてしまいましたが、私がボランティアとしていかにフィジーの生活をエンジョイしたか、お分かりになったと思います。

おそらく皆さんは私のフィジーでの仕事の話は余り興味が無いと思いますが、最後に少しだけお話しして、私のフィジーでのボランティアの話が終わらせたいと思います。

私のフィジーでの仕事は、JICAからは、赴任する前に私の経験と知識を生かして都市計画をフィジーの政府の若い人達に指導してほしいといわれて赴任しました。

でも1ヶ月間のフィジーでのJICAの現地研修が終わり、フィジー政府の赴任先に行ってみると、フィジー政府はその仕事を、すでにコンサルタントにやらせて終了しており、私の都市計画を指導するという仕事が無い事がわかりました。JICAは職務怠慢で、私を騙したことになります。JICAは有りもしない仕事を募集したのです。これは犯罪です。虚偽の内容の仕事募集を行い、私は、ありもしない仕事のためにフィジーまで来たのですから、立派な悪質犯罪です。その事実を、私はフィジー政府に赴任して初めて知りました。私はリタイアした時、外資系企業から素晴らしいオファーをもらったにもかかわらず、断って、フィジーに来たのですから、とっても腹が立ちました。この犯罪に対してJICAは謝る事もしないし、何も対応しませんでした。だま



れた根岸が悪いんだ。帰りたければ日本に帰れという態度でした。調べたら、このようなことは私ばかりでなく他のボランティアにもありました。JICAは外務省の外郭団体ですが、役人と一緒に、誰1人責任をとろうとしませんでした。

私はとっても腹が立ちましたが、すでに日本での仕事を断り、フィジーで車を買って、住まいも2年間の賃貸契約も済ませたのですから、日本に帰るまでの煩わしさを考えると、考え方を切り替えました。私はせっかくフィジーに来たのだから、フィジーを2年間エンジョイしようと考えました。JICAを頼らず、自分で、フィジー政府と交渉しました。フィジーがまだ英国に統治されていた時代の、150年前の古い建築物が町として残っている場所を、世界遺産として申請しようとしていることを知りました。それを建築家としてサポートすることをフィジー政府に提案して、快諾を得ました。その場所はフィジーが独立したときの最初の首都になった場所でした。それはスバから6人乗りのセスナ機で30分の所にある小さな島にある小さなレブカという町でした。レブカにはコロニアル様式と言う様式で150年前に建てられた建築物が今でも100棟くらいあり、日本の観光案内書にも紹介されているこじんまりした綺麗な町です。私はフィジー政府にその町並みを含む島全体を世界遺産として申請することを提案し、世界遺産を許可する権限を持つユネスコのダイレクターがフィジーに来た時も、彼にフルアテンドし、町並みの歴史的建物を1つ1つ説明して、ユネスコのダイレクターから世界遺産にするという約束を取り付ける事に成功しました。又フィジーの国立図書館に何回も通い、150年前レブカの町を俯瞰したカラーの細密画を、博物館裏の倉庫にある古いキャビネットの中から見つけ出しました。その細密画には当時の建物がいくつも描かれ、それが現存している建物と一致していることがわかり、ユネスコへの申請に必要な歴史的建物である証拠として大変貴重なものでした。

又インターネットの情報を検索して、150年前のレブカの建物の写真がオーストラリアのシドニーの

博物館に大量にあることを見つけました。おそらく英国の大英博物館にも同じような情報があると思いますが、帰国までの時間がなく、大英博物館を調べることが出来なかったのが心残りでした。

150年前、イギリス人がフィジータイムスというタブロイド版の英語の新聞をフィジーで週1回刊行していました。今でもその新聞社は現存していて、初刊からフィジータイムスミュージアムに保管されていました。その新聞を調べると当時の建物の写真が保存されていて、これも現存するレブカの町の歴史的建物の証拠となるものでした。

又150年前のフィジータイムスからとっても面白いものを発見しました。150年前の日本の幕末の状況がその新聞に載っていたのです。イギリスと徳川幕府の記事が書かれていました。その頃のことに興味のある人にはフィジータイムスは歴史の宝庫かもしれませぬ。

私がユネスコから世界遺産の内諾を取った手腕や、サポートしたこれらの世界遺産の仕事は、フィジー政府から大変喜ばれました。何故なら、南太平洋にはまだ世界遺産が1つもないからです。フィジーで世界遺産が承認されると南太平洋での最初の世界遺産になり、国おこしの、大変な国の財産になるのですから。

私の建築的サポートは終了し、後は私の見つけた歴史的建物の証拠の細密画、写真、などを使って、どの様に申請書を作るかだけが仕事として残りました。世界遺産の承認はユネスコの審査を受けて再来年になる予定です。

申請書の作成と、来年(2009年)に行われるユネスコの審査を残して、今年(2008年)4月に契約を終えて、オーストラリアでユースホステルに泊まりながら1週間ゴルフ楽しんで、帰国しました。今年(2008年12月)フィジー政府の世界遺産の担当者達からクリスマスカードをもらいました。皆、私が帰国した後でも、世界遺産の承認に向けてのんびりと頑張っているようです。

フィジーのレブカの古い町並みがユネスコから世

界遺産の承認を受けたら私に連絡が入ることになって  
います。

今からそれをとっても楽しみにしています。

## ドイツビール事情

香山弘之(昭35 政経)

最初に

退職後これまであまり聴いたことのない、バッハの  
声楽曲を聴くことにした。器楽曲は聴く機会も多く、  
CDも買い集めたが声楽曲は馴染みが薄かった。先ずは  
カンタータ全曲(200余曲)のCDで約70枚を順次購入、  
カンタータ全曲演奏を継続中の団体の会員になり演奏会  
に通い出した。

2000年はバッハ没後250年の記念すべき年、いろ  
いろの行事が計画されたが、その1つにバッハ音楽祭に  
出掛ける海外ツアーがありそれに参加した。

バッハ音楽祭はバッハが後半生を過ごした旧東独  
のライブチッヒで10日間大小十数個所の会場で  
様々な催し物が開催される。約20名で到着、毎日バ  
ッハを聞き時間が空いた時には、バスで近隣のバ  
ッハゆかりの地を見学、楽しい時を過ごした。食事は  
ビアホール・レストラン、そこでビールが出された  
がその美味さに仰天、団体で行くと1杯飲んで終わ  
りとなるので音楽会終了、解散後また毎夜ビールを  
飲みに直行楽しい夜を過ごした。

地ビール天国ドイツ

ドイツは何処へ行ってもその土地のビールがある。  
地ビールが主流で日本みたいな全国銘柄のビールは  
見かけない。ビールの醸造所の数は千数百箇所、作  
られる銘柄は6,000種類と聞く。最近人気のベルギ  
ービールも醸造所は100余り、如何に多いかが分か  
る。

面白いのはビールのメーカー毎に独自のグラスを  
使っており、格好は似ているが長年の経験で一番美  
味しく飲める形にしてあるようだ。

最古のビール醸造所は1040年遡るといふ。修道院  
で修道士の飲むパンとして発達した醸造技術は、19  
世紀にパスツールが酵母を発見して以来酵母が加え

られ現在のビールになった。現在のお勧めは酵母を  
濾過していない濁りビール、酵母の香りとはほど良い  
酸味、のど越しのよさは格別である。最近では保存  
技術の進歩で日本でも直輸入の濁りビールが飲める  
ようになり、ドイツビールのお店も増えてきている。

4回目のドイツ旅行

1回目はツアーで出掛けましたが、要領が分かっ  
たので2回目は単独行動、一人だと何かと不便なの  
で3回目は同じくビール好きの家内と二人で出掛け、  
昨年6月、4回目のドイツへまた二人で出掛けまし  
た。

9:45分成田発、フランクフルト着14:30分、列  
車でドナウ河畔の美しい古都レーゲンスブルグへ向  
った、ここでの楽しみは11世紀に出来たという炭焼  
きソーセージのお店、ところがホテルで場所を聞い  
たところ、もう閉店しているとのこと、まだ明るい  
19時に閉店とは考えていなかった。ホテルで代わり  
のビアホールを紹介してもらい出掛けてみたがこれ  
が大当たり、ビールは酵母を濾過してない濁りビー  
ル、グラスからはなんともいえない良い香りが漂い、  
のど越しの良さは天下一品、旬の白アスパラカスと  
もよく合った、こんなこともあるのが旅の良さでも  
ある。

翌日は電車・バスを乗り継いでドナウ川の船着場  
から遊覧船で45分、修道院でかつ醸造所でありなお  
かつ世界最古だといふウエルテンブルグへ出掛けた。  
遊覧船は団体客で満員、貸し切りバスで来ている人  
が多い。修道院の中庭で飲んだビールは昨日と同じ  
濁りビール、おつまみの豚のすね肉のかりかり焼き  
も最高。民族衣装を着た陽気なウエイトレスはハン  
ガリーから来たとのこと。

次に向ったのはミュンヘンから電車で30分の所

にある醸造所ホテル、ここは3年前にも訪れたとき美味しい料理を食べさせてくれた所だ。都会から20分も離れると家もまばら、着いた駅は無人駅、ホテルまでの10分の距離は会う人も居なかった場所が、今回きてみると駅は立派に改装され、ホテルに行く途中には建売住宅風の建物もちらほら、空いていたホテルも団体客がパーティーをやっていた。前回来た時に親切にしてくれた従業員はおらず、楽しみにしていた料理もそれほどではなかった。ただ醸造所からパイプで運ばれる出来立ての濁りビールは以前のままの美味しさだった。

ここから列車でウーン・プラハを経て、再びドイツに戻って来たのはライン川のほとりのドレスデン、2000年に来たときは未だ復興前で駅前には廃墟のままだったのが綺麗な町並みを取り戻しており、歴史的な建造物も元のままの状態に復元されていた。ここでは時間もなくミュンヘンのホフブロイハウスのビールを賞味した。

ここから列車で1時間半、音楽会の会場のライプチヒへ到着。早速日本人の観光客が良く行くワイン酒場へ、このビールは濁りビールではない濾過したタイプ500mlを2杯、料理は盛り合わせを頼んだが量が多すぎ2人で1人前で十分でした。

翌朝は9:30から日曜日の礼拝に参加、オルガンの演奏・聖歌隊によるカンタータの演奏を聴いた。そして20:00から音楽祭最後のイベントバッハの「ロ短調ミサ曲」を聞いた、場所はバッハの墓地があるトーマス教会、1,500名の収容能力がある。当日の日本人の聴衆は約70名とか、ツアーも2組来ていた様だ。

今度は列車で北ドイツのハンブルグへ向った、ベルリンに次いで2番目に大きい都市ということで観光バスに乗車、湖もある街を一周した。ここは最大の港町、寿司弁当が目についた、残念ながら試食はしないでさらに「バルト海の女王」と呼ばれたリュウベックへ、トーマス・マンの故郷でもある。ここでの目的は魚料理、ホテルのすぐ側に「船員組合の家」という有名なレストランがあり直行、メニューを見ると鰻が載っていました。この料理は太い鰻を

ぶつ切りにし甘酸っぱいゼリーの中に閉じ込めたものでした。そのほかにも魚のフライの盛り合わせなど、ビールとともに魚介類を堪能しました。

次の日は世界遺産の大聖堂の街ケルンへ、ここでは駅の中にあるホテルに泊まり部屋から大聖堂が直接眺めることが出来ました。早速目の前にある居酒屋のテラスに陣取り名物のケルシュで乾杯、ケルシュというのはビールの種類であり銘柄ではない。銘柄は24種類あるそうだが、軽くてホップの苦味がさわやかで飲みやすいビールだ。ケルシュは0.3リットルはいる細長いグラスで飲む、以前は0.2リットルだったが0.1リットル増えていたのは効率を上げるためのようだ。

いよいよ最後の夜はライン川のほとりの丘の上にある古城ホテルだ、ライン川を見渡せる最上階の部屋に泊まった。正面にはローレライの遺跡がみえる、家具調度品は昔のまま、ベッドは天蓋があり王侯・貴族の生活を偲ばせる。ディナーは初めてのフルコース、初めに飲んだのは地元のエムビール、最近では日本にも輸入されている濁りビールを地元で飲むとやはり美味しい、そしてラインワインこれもまた結構でした。

次の日はライン川ぞいに列車でフランクフルトへ、ここでは名物のリンゴ酒を飲もうとガイドブック片手に街を歩いたが探さずにはデパートへ入り最上階の食堂に行ってみた。ここは好きな料理を好きなだけ皿に盛りカウンターで重さを量ってもらう(444g)、つまりグラム当たりの単価が決まっています値段(9.99ユーロ)が決まる、飲み物や単価の高いステーキは別の皿になるが料理の名前が分からない旅人には有難いシステムだ。リンゴ酒もビンに入ったものを飲むことが出来た。

最後にビールの価格ですがケルンで飲んだ300mlは3.45ユーロ、濁りビールは多少高め、エムビールは多少安い。現地の人は毎日来ているせいか、つまみはとらずビールのみ何杯もお代わりする、つまみはおしゃべりと音楽・各種楽器の演奏をやっているところが多い。

今回の旅行も列車の旅、朝ホテルでしっかりと朝

食を食べ昼と夜は居酒屋、見物は全て徒歩、喉が渴いたところでビールという旅で、雨には思わず良い旅でした。

## 我らの同好会活動

### 囲碁将棋

早川 政夫(昭30 商)

#### 平成20年度の活動報告

##### 1、月例会

毎月第4日曜日の午後1時から6時まで、菊野台福祉センターで、毎回数名の参加者を得て行なわれた。

##### 2、例大会

###### ○ 新春囲碁大会

1月27日(日) 於菊野台福祉センター、参加者15名  
優勝者 A組 澤井9段、B組 濁川4段、

###### ○ 夏季囲碁大会

7月27日(日) 於菊野台福祉センター、参加者15名  
優勝者 A組 大谷8段、B組 早川3段、

###### ○ 新春将棋大会

2月24日(日) 於菊野台福祉センター、参加者4名  
優勝者 豊間根初段

##### 3、特別イベント

###### ○ 囲碁忘年宿泊研修プラン

12月13～14日(土、日) 於ウエルサンピア多摩、参加者8名

##### 4、対外交流会

###### ○ 第8回オール早稲田囲碁祭



6月7日(土) 於日本棋院市谷本院、出場者 大谷、床波、塩澤、椎原、川住、早川 以上6名(敬称、段級位略)  
調布は第5回にDクラスで優勝以来、2年ぶりに同クラスで準優勝を果たして強豪振りを発揮した。

○ 第4回調布・稲城・多摩稲門会囲碁交流会  
4月13日(日) 於稲城市地域振興プラザ、参加者 澤井、大谷、川住、塩澤、濁川、早川 以上6名(敬称、段級位略)  
戦績 Cクラス優勝早川

○ 第5回調布・稲城・多摩稲門会囲碁交流会  
9月6日(土) 於京王クラブ、参加者 澤井、大谷、塩澤、川住、早川 以上5名(敬称、段級位略)  
戦績 Cクラス優勝早川

#### 平成21年度の活動計画

月例会、恒例大会、宿泊研修、及びオール早稲田囲碁祭への参加は引き続き実行の予定。  
地域友好を計る近隣稲門会(調布・多摩・稲城)囲碁交流会は、稲城→多摩→調布と持ち回り主催して来ておりますが次は当調布の当番につき来年早々に企画して盛大に実行の予定。

#### 囲碁将棋同好会への誘い

現在会員は23名で毎月第4日曜日の午後1時から午後5時まで、菊野台福祉センター(京王線柴崎駅下車、甲州街道を渡り、徒歩数分)で例会を行っております。

その他春夏の例大会のほか宿泊研修やオール早稲田囲碁祭等対外交流会も企画しております。  
高段者から中級、初級まで多士済々のメンバーで和気藹々とやっております。

入会金、会費とも無料で大会費用等はその都度清算方式です。

下記の連絡先へ一度お電話下さい。お待ちしております。

連絡先 早川 政夫 042-487-9610  
塩澤 誠 042-484-1505  
大谷 暢廣 042-481-0202

## カラオケ同好会

小笠原 忠八郎(昭40 商)

同好会として毎月定期的に実行することはして居りません。

新年会、総会等、会員皆様の参加人数で実行しており、その意味では同好会とは言えないかも知れません。

カラオケの上手になりたい人、もっと歌いたい人が会員の中にあれば、「レッスンの内容」を取り入れた同好会にすれば良いと思います。これが本年度の課題です。

昨今、昼間、カラオケ会場を借りるだけでも2000円位します。今までのようにアルコールがあった方が良いでしょう。一度、皆様のご意見を聞いて決定したいと思います。そうすれば会員が集まるかも知れません。

会員の集る会の後しか実行していないという残念な同好会です。何か良い方法で回数を増やす様になりたいと思います。また会場を変えても良いと思います。稲門会会員のご紹介なら外部の方でも良いと思います。まず回数を増やすこと、人員を増やすことを考えたいと思います。昨年度は新年会、総会、暑氣払いの後の3回でした。

## テニス同好会

村上 勉(昭42 教育)

現在の登録メンバーは18名、そのうちコンスタントの参加者は12~13名。使用コートは殆ど市営コート。土日中心で、予約が取れ次第の開催となります。参加費は概ね2時間200円と超格安です。不定期ですが山中湖、逗子で年2回程度の強化合宿、(と言っ

ても飲み会とカラオケ中心)があります。

昨今、ご多聞にもれずメンバーの老化が進み故障者が多くなり、当会のモットーである「一段のレベルアップ」にイエロー信号の兆しが見えます。よって「多摩稲門会」「小金井稲門会」等、近隣稲門会、それに調布三田会との交流戦を企画しています。

日本では「変」米国では「チェンジ」、調布稲門会テニス同好会では「変身」して一段の飛躍をしたいと考えております。現在参加のメンバーはより一層のレベルアップを目指して、研鑽して頂きたい。加えて若くレベルの高いプレイヤーに入会してもらい、全体のレベルの高揚を図っていきたく考えています。少しでも関心のある方の入会をお待ちしております。

## ゴルフ同好会

香山弘之(昭35 政経)

現在の登録メンバー30名前後ですが、どうしても体調不良で不参加の方が増えていますので10名前後のご参加ということになります。最近の調布三田会との合同コンペでもスコア的にはかなり離されて負けておりますが、参加人員の点でも春8名・秋11名のご参加で離されております。優勝は春・秋とも三田会の矢田部氏、グロスのスコアの上位3名には残念ながら稲門会は、春は0名・秋は1名という状況です。スコアの向上は難しいと思いますので、楽しいゴルフが出来るよう心がけております。

昨年の大月でのコンペでは参加賞として地元産の野菜を参加者全員にお持ち帰り願いました。今年は何とか参加人数を増やして賑やかな会にしたいと思っています。

2008年度は以下の通り平日に行いました。

5月15日(木)	レイク相模 22名	三田会との合同コンペ
6月10日(火)	大月 11名	稲門会単独 優勝安松氏
10月2日(木)	津久井湖 11名	稲門会単独 優勝中村氏
11月11日(火)	レイク相模 23名	

### 三田会との合同コンペ

2009年の計画は

5月20日(水)調布三田会と合同のコンペを大月C.C.での開催が決まっています。

4月上旬には稲門会単独のコンペを予定しております。初参加大歓迎です。

### 社交ダンス同好会

元木 勇(昭37 政経)

平成14年8月25日(日)調布市文化会館「たづくり」において、社交ダンス部が発足してから、早くも7年目に入りました。

現在は、会員の方は大変上手になり、皆が楽しく、レッスンに励んでいます。「継続は力なり」です。

社交ダンスは、スポーツに芸術的要素を加味し、①年齢に関係なく楽しめる趣味として②美容と健康を増進するものとして③生涯学習として④地域社会に貢献するものとして、今多くの方々が踊っています。例会は、土曜日・日曜の午後を中心に平日の夜間を加えて、会場の都合により、月に3~4回行っています。

社交ダンスに全く経験のない方でも、安心してついていかれるように、工夫された講習となっています。ぜひともご参加ください。また稲門会関係以外の方も一緒に誘ってください。大歓迎お待ちしております。

### 太極拳

中野 完二(昭35 文)

太極拳同好会は設立25周年となり、2008年3月23日に25周年記念大会を調布市総合体育館で、楊慧先生らご来賓をお迎えして盛大に開きました。

昨年はまた4月18日に東京体育館メインアリーナで開かれた、3000名参加の第5回健康太極拳東京都大会に参加、5月10日、第11回太極拳祭(台東リバーサイド スポーツセンター)、6月22日、諏訪大社奉納演舞交流大会、10月5日、太極拳全国交流大会でお祝い演舞(代々木第一体育館)、11月9日、本

部道場中野教室・台東研修センターとの合同野外稽古(神代植物公園自由広場)などのほか、東京都支部西地域指導者研修会に参加など、外との交流が相次ぎました。

毎週日曜(5週目は原則お休み)、午前10時~11時半の調布市総合体育館小体育室での稽古が基盤になっていることは勿論です。

### 麻雀同好会

濁川 寿次(昭42 理工)

麻雀同好会 平成20年の活動は2月2日(土) 第66回例会を4卓で開催、優勝 関口様、第2位 下村(美)様、第3位 竹内様でした。

秋、第67回例会は10月11日(土)、場所はいつも通り「憩」で開催し、優勝は渡辺様、第2位 加藤様、第3位 望月様でした。

最近、調布稲門会 麻雀同好会の会員も高齢化が進み、また若手の入会がほとんど無く、珍しく3卓の例会となりましたが、初めて参加の望月様が活躍、また会員外ですが東村山から奥田様(大谷様の友人)が駆けつけて頂き、毎度のごとく和やかな中にも、熱気に包まれ和気あいあいの日でした。

例会は半荘4回の対局で優勝者は勿論、全員に賞品がわたります。入会希望の方は、いつでも幹事宛に申し込んで下さい。

### ワングル同好会

天野 凡子(昭56 文)

ワングル同好会は東京近郊を楽しく健康的に歩きながら、互いに親睦を深め合える会員数約30名の和気藹々とした同好会です。

前号「紺碧」でご報告した初夏の「金沢八景歴史探勝」に続き、この秋は11月23日に「武蔵野の雑木林」を散策しました。当日は三連休の中日とあて、参加者はいつもより少なかったものの、府中の森公園~浅間山公園(富士山がきれいに見えました!)~多磨霊園~武蔵野公園~野川公園~武蔵野の森公園と、府中・小金井・調布の三市にまたがる五大公園を踏破しました。丁度、紅葉も見頃でこんな身近

な場所に、豊かな自然があることに改めて感動した一日となりました。

最近あんまり歩いてないなあ、行ってみたい所はあるけど、一人で出掛けるのはちょっと。そんな方は幹事にお声を掛けてください。次回は是非、一緒にレッツ ウォーキング！

### 食・歩会

山田 和子(昭49 文)

食・歩会の会員数は2008年12月現在、20名です(会員8名、準会員12名)。

2008年度は3月15日(土)に山田自宅にて茶話会(9名出席)。地元なので気楽に普段着で参加できる集いです。今後も年一回行う予定です。6月15日(日)

に春の集いとしてレストラン “マダム・トキ” にてランチ、その後、代官山の散策を行いました(出席者11名)。

この店は‘78年創業で大人向けの寛げる雰囲気の一軒家のフランス料理店です。極めつけはデザート豊富なこと。私の娘達も何かにつけ、ここを選びます。出席者全員、食事は勿論のこと、デザートに大満足でした。美味しいものを戴きながらの一時は格別です。

秋の集いは私の身内に不幸があり、東京を離れることが多く、残念ながら実施出来ませんでした。現在、一人で食・歩会を運営しております。副代表募集中です。

### 2008年 活動概要

1/26：会報第27号 2/17：新年会 神楽坂 鳥茶屋 46名出席 盛況 3/22：校友会 幹事長・代議員会 5/17：第27回総会 会員・来賓 83名出席 調布文化センター “たづくり” 6/17：三多摩支部 会長・幹事長会 6/22 会報第28号 9/26：代議委員会 10/15：第2回三多摩支部 事務局会議 10/26：2008年稲門祭 10/29：東京都支部 合同会長会議 大隈会館 11/24：三多摩支部大会 立川 グランドホテル 12/7：調布市福祉バザー 3/22、4/26、6/21、8/30、10/18：幹事会

2007年10月 創立125周年を祝い、「Waseda Next 125」に歩みを進める母校 早稲田大学。世界に躍進する母校の発展を支援する、校友会活動に協力▼大麻に汚れた学生の不幸事に、キャンパスを見守る大隈侯の表情も憂いにくれていた▼例年、12月開催の調布市福祉バザーに参加している。年々、品物集めが厳しくなっている。盆暮れの虚礼を控える動きも一因だろう。景気が落ち込んだ昨今、フリーマーケットの類は、注目されてくる。今回は初めて食品を扱い、売上に寄与した。福祉活動を続け、地域社会との関係を深める▼三多摩支部大会で早稲田大学ハワイ民族舞踊研究会の女子学生が、校歌「都の西北」を披露した。踊りに手話的な要素があり関心を引く。

### 平成21年 新年会

平成21年2月21日(土) 13時～ 深大寺 そばごちそう門前

### 平成21年度 第28回 定例総会

平成21年5月23日(土) 調布市文化会館「たづくり」 12階 大会議場

お客様の最良のパートナーを目指して

(株)京王百貨店 調布外商営業所  
所長 矢部 勝美

調布稲門会の会員の皆様には日頃より、お引き立てを賜り誠に有難うございます。

また、この度は会報「紺碧」に寄稿の機会を頂きまして誠にありがとうございます。

私は現在、(株)京王百貨店調布外商営業所の所長を勤めさせていただいております。

調布稲門会の皆様に、調布外商営業所の業務内容並びに担当地域を簡単に紹介させていただきます。

調布外商営業所は調布市を中心に狛江市・三鷹市・武蔵野市・西東京市を担当エリアとして営業活動しております。業務内容といたしましては、お中元・お歳暮は基より販促品関係・資材・業務用品・ユニフォーム・・・紳士服外販・各種行事記念品・ご

返礼・インテリア・リネンサプライ等幅広く、京王百貨店ならではの「企画」・「品質」・「価格」・「安全性」に優れた商品と、きめ細やかナサービス体制でお客様の最良のパートナーを目指しております。

また、各担当者は弊社の企業理念に則り、お客様の心を私たちの心とし、お客様を第一に考え行動し良質で時代性に富んだ、鮮度ある商品の提供により、お客様のご満足を追求し信用・信頼を築くよう心がけております。

常日頃から「人の喜びを大切に」をモットーに、これからも地域の皆様に愛される営業所を目指して所員一同頑張っていく所存でございます。

ご支援の程、宜しく申し上げます。

<p>思いをカタチにするそれを支える プロの技がここにあります 冠婚葬祭・出張料理・パーティ料理・会席料理 <b>アジサイワールド(株)</b> 電話 〇二〇・五五五・五八五 FAX 〇四二・四九九・七八八 <a href="http://www.ajisai-world.co.jp">http://www.ajisai-world.co.jp</a></p>	<p><b>ギフト</b> <b>京王百貨店調布外商営業所</b> 住所 〒182-0024 東京都調布市布田一、四五、一 電話 〇四二・四八一・五七六一 FAX 〇四二・四八七・九〇一一 シエロビル四階</p>	<p><b>桜田倶楽部</b> 東京テニスカレッジ 会長 <b>秋山 一</b> 住所 〒182,0017 昭和22政経卒 東京都調布市深大寺元町二、三二、一 電話 〇四二・四八二・二二〇九</p>	<p>深大寺そば 創業文久年間 ～宴会・俳句会・御法事 <b>元祖 嶋田家</b> 住所 〒182,0017 東京都調布市深大寺元町五、十二、十 電話 〇四二・四八二・三五七八 FAX 〇四二・四九九・六六五五</p>	<p>不動産賃貸 <b>中村不動産管理株式会社</b> 代表取締役 <b>中村 俊一</b> 住所 〒182,0035 東京都調布市上石原一、一〇、一 電話 〇四二・四八二・二〇三三</p> <p>リフォーム 外壁塗装・屋根塗装 <b>株式会社住まいるスズキ</b> 代表取締役 <b>鈴木 光孝</b> 〒182,0023 東京都調布市染地三、五、六五 電話 〇二〇・〇八〇・二四二二</p>	<p>早稲田大学商議員 <b>早稲田大学調布稲門会副会長</b> <b>元 木 勇</b> 自宅 〒182,0003 調布市若葉町二、二二、一〇 電話 〇三、三三〇〇・四五五四(代) FAX 〇三、三三〇〇・八七二八</p>
<p><b>野村證券株式会社調布支店</b> 支店長 <b>松下 明希子</b> 住所 〒182,0024 東京都調布市布田一、三六、九 (京王線調布駅北口) 電話 〇四二・四九八・六〇一一(代) FAX 〇四二・四九八・六〇九九</p>	<p><b>林建設株式会社</b> 取締役会長 <b>林 和男</b> 取締役社長 <b>林 清一</b> 住所 〒182,8512 東京都調布市小島町二、五六、三 電話 〇四二・四八六・一一一一 FAX 〇四二・四八六・一一二〇</p>	<p><b>堀紙管株式会社</b> 住所 〒182,0034 東京都調布市下石原三、六二、一 電話 〇四二・四八七・一一五一(代) FAX 〇四二・四八七・一一五四</p>	<p>新しい食文化を創る <b>株式会社山田屋本店</b> 代表取締役社長 <b>秋沢 淳雄</b> 住所 〒182,0024 東京都調布市布田三、一、一 電話 〇四二・四八二・四五八五 FAX 〇四二・四八二・四五七二</p>	<p><b>早稲田大学商議員</b> <b>早稲田大学調布稲門会会長</b> <b>河野 瑠美</b> 自宅 〒182,0013 調布市深大寺南町四、三九、三 電話 〇四二・四八八・六七八一 FAX 〇四二・四八八・六七八一</p>	



